

## 7 国際交流

### 進捗状況報告

<p>社会学部</p> <p>1. 学部生の国際化・国際交流ということに関しては、2003～2006年の各年度の社会学部から外国大学への交換留学生数(1年間)は3名、2名、4名、6名となっており、中期留学(1学期間)への参加学生数は13名、14名、10名、12名となっている。一方、2003～2006年の各年度の本学部所属の正規留学生数は25名、25名、24名、26名で、交換留学生は0名、2名、2名、6名となっている。</p> <p>2. 大学院生の国際レベルでの教育研究交流の推進のために、英語での論文作成や研究発表対策のための大学院の授業(COE特別研究III)を2004年度より開講するとともに、2006年度より国際学会での発表準備のための英語チューター制度(2006年度は9名の院生が利用)および英語のみを使用言語とする社会科学の学際的なディスカッション・セミナー「COE Colloquium(コロキウム)」を開催(2006年度には10回)している。こうしたプログラムの成果として、社会学研究科の院生・研究員およびCOEプログラムのRA・専任研究員の国際学会での発表は、2003年度2回、2004年度5回、2005年度9回、2006年度12回と着実に増加している。</p> <p>3. 社会福祉学科のアドバンスト実習では、学部生を海外への福祉機関やNGOを夏季休暇中に1ヶ月半の間実習させる海外実習を2003年度より開始し、2006年度を除き、毎年1名の学生をフィリピンに送っている。</p> <p>4. 2003～2006年度の本学部が受け入れた海外からの客員教授の数は、それぞれ5名(ドイツ2名、カナダ・米国・中国各1名)、2名(オランダ・シンガポール各1名)、2名(ドイツ・米国各1名)、5名(中国2名、カナダ・ドイツ・ネパール各1名)となっている。</p> <p>5. 2003～2006年度の本学部から海外の大学に留学した教員数は、それぞれ4名(デンマーク・米国・英国・イタリア各1名)、4名(オランダ・米国・英国・オーストラリア各1名)、4名(オランダ・米国・英国・フィリピン各1名)、1名(オランダ)となっている。</p>
<p>社会学研究科</p> <p>1については、グローバルCOEプログラムへの申請することで可能性を追求。 2については、先端社会研究所での共同研究として持続させる方策を検討。</p>

### 学内第三者評価

<p>国際交流について着実な成果を上げている。 学部の交換留学生の派遣・受け入れ、大学院生の国際学会での発表、海外教員の受け入れや本学教員の海外留学などCOEプログラムと連動して成果が上がっており高く評価される。 ポストCOEでの継続が期待される。</p>
<p>なお、特別委員からは以下の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▪ 意欲的な自己点検が行われて、全体として改善されてきている。21世紀COE特別研究が大きな効果を生んでいるようだ。</li><li>▪ 国際交流について意欲的に取り組んでいる。英語のみを使用するセミナーの開催、学会発表、客員の招へい、教員の海外派遣など積極的で関学のモデルとなろう。</li><li>▪ 更に一步を進めて、外国人客員の常勤化や英語だけによる授業に取組み、関学のペースセッターになることが期待される。</li></ul>